

平成25年度 南魚沼郡市音楽部 活動報告

部長 種村啓子

〔研究主題と研究の概要〕

当部会は、研究主題を「思いや意図をもって音楽表現する子どもの育成」とし、授業研究会や実技研修会を通して互いに学び合い高め合うことで、その具現に努めています。

今年度は、川越市立仙波小学校の栗飯原喜男先生からおいでいただき、「クラスの誰もが好きになる音楽鑑賞の指導法」についてご指導いただきました。



〔研究の実際〕

まず、音楽鑑賞と学校における鑑賞指導の違いについて、音楽鑑賞は純主観の世界で好きなジャンルを聴く行為であり、学校における鑑賞指導は聴くねらいが明確にあり、共通事項とのかかわりにおいて細かなステップを必要とし、最終的には「聴くことが楽しい」という子どもを育てなければならぬとご指導いただきました。

次に、鑑賞指導の授業の組立てについて、「ここがポイント！」を示してくださいました。

一つは、めあてを持って聴くということ。そのためには、適切な発問が大切で、「どうだった？」という発問はタブーとのこと。先生は、鑑賞指導の際には、「これから音楽をよく聴く勉強をします。」を決め言葉に、必ずB基準になるように、分かる発問、聴き取らせたい内容に直接迫る発問を投げかけながら聴かせるようにしていると話されました。

二つは、指導のねらいと「共通事項」の焦点化を図ること。そのためには、クラス全員が「知る」「気付く」ことからスタートすることが大切で、誰もが分かるB基準を作ることが大切とのことでした。



三つは、評価方法です。言葉で表わす活動ではなく、反応を観察することを大切にされているとのこと。活動を変えながら何度も聴かせることが大切であると話されました。

最後に、模擬授業形式で、鑑賞曲「シンコペイテッドクロック」を用いて、「カチカチの音が聞こえたら手をあげて。」「リズムに合わせて指を左右に動かしてみよう。」「ブランコみたいに身体を揺らして。」「ベルが聞こえてきたらこんなポーズだよ。」など、身体を動かしながら楽しく聴いて旋律の移り変わりに気付く活動を楽しむことができました。また、「マンボNO5」では、演奏形態や演奏者の異なるものを聴くことによって飽きずに聴くことができ、自分の好きな演奏形態を選択することが「味わって聴いている」ことにつながるといった提言もいただきました。

がら楽しく聴いて旋律の移り変わりに気付く活動を楽しむことができました。また、「マンボNO5」では、演奏形態や演奏者の異なるものを聴くことによって飽きずに聴くことができ、自分の好きな演奏形態を選択することが「味わって聴いている」ことにつながるといった提言もいただきました。



〔成果と課題〕

中央から講師を迎えて充実した研修を行うことができました。「鑑賞指導について研修したい。」という会員の要望から実施した研修会。多くの学びを実際の授業に生かし自身の指導力を向上させていくことに努めたいと考えます。